

協力隊活動報告

大井田隊員報告

矢川区の一人暮らしの方々を訪問させていただくうちに、高齢者の方から『一人暮らしの方だけで交流会をしようよ!』というお話をいただきました。区長さんをはじめ皆さんと準備を進めながら、梅雨が明け暑い中でしたが、たくさんの方が集まってくださり8/4に無事に一回目を開催することができました。同じ区で暮らしていても普段なかなか会えない状況で、久しぶりの再会という感動もありました。思い出話も膨らみ、8月生まれの方のお誕生日会もでき、皆さんの笑顔がいっぱいの楽しい時間を過ごすことができました。『生きがいづくり』という言葉は形では表せないものですが、こうした時間を通じて皆さんの笑顔がみられることがその証なのだと実感しました。



渡辺隊員報告

「まちづくり」

協力隊に着任してから「観光」と「地域活性化」において、この2つは実に密接なつながりがあるということを考えさせられます。とある町の日帰り温泉や農産物直売所などに寄った時のこと。大きな観光資源がなくともその町が持つ小さな資源をパズルのように組み合わせ、結果それが観光や地域活性化につながっている、というものでした。

行政と現場と町民の意向(かな?)、それらの役割や方向性がバランスよく取れていると感じさせるものでした。またその町に行ってみたいと思っています。

小池隊員報告

2016年7月1日より下仁田町地域おこし協力隊イベント実行委員会が立ち上がりました。

その第1回イベントとして、東京の文京区で7月24日に開催された朝顔ほおずき市に実行委員会が出店してきました。下仁田町の特産コンニャクや、地元野菜などを販売し、下仁田町のPRを行いました。



片山隊員報告

8月は夏休みに合わせ、子供向けのジオパーク体験講座を複数回実施しました。なかでも人気だったのが「アンモナイトキーホルダー作り」。アンモナイト型のキーホルダーを作りながら、地層のでき方を学ぶ講座でした。講座の終盤には、子どもたち自ら実験したり、観察したりして、とても楽しんでいる様子でした。4月に着任してから準備していたことをようやく形にすることができました。これからも頑張っていきます。



沼田隊員報告

8月14日に夏祭りに参加して参りました。そこでは協力隊として少しでも楽しんでいただける企画と群馬県の協力隊の宣伝をいたしました。そこで、地域の方々にたくさん声をかけていただきまして、他の地域の協力隊に驚かれました。本当に地域の方々に恵まれて生活している事を実感いたしました。本当にいつもありがとうございます。

下仁田町の火災

里見哲夫

9月1日は防災の日、この日は各地で防災訓練が実施されています。命を守るため常に備えを持つことが何よりも大切なことです。7月号の広報に地震・気象災害等を書きました。ここに下仁田町に発生した過去の大火について調べてみました。

①～③は1917年(大正6年)。④～⑤は1934年(昭和9年)の新聞記事です。

- ①. 小坂村で39戸 1月31日午後2時頃、北甘楽郡小坂村の民家より出火、折柄の西北の烈風に煽られ猛火となりて民家を順次襲ひ、火勢は唸りを生じて山林へ入り、凄惨たる光景を呈したり。午後5時に至り漸く鎮火、罹災家屋は39戸71棟その他山林を焼失。罹災者家族150余名は、焼け跡で寒天に3日3晩の露宿せざるべからず。(2月2日、3日)上毛新聞。山林の焼失は100町歩(100ヘクタール)といわれています。
- ②. 5月19日午後11時40分、北甘楽郡下仁田町の飴菓子商より出火、下仁田盆地は忽ち猛火を以て覆われたり。火は中町の大通路を一直線に進み、同町の大半を見る見る烏有(うゆう)に帰せしめ、翌晩3時15分鎮火したるが、焼失戸数87戸、その焼け跡を見るに一木一草あまさず焼尽せり。(5月20日、21日)上毛新聞。
- ③. 下仁田町の大火 19日午後11時40分北甘楽郡下仁田町字新町〇番地〇〇〇〇方より出火したるが折柄の烈風と水利の便なき処とて下仁田の盆地は忽ち猛火を以て覆はれ全町を一舐めにせしが物凄き光景を呈したり目下判明したる焼失戸数87戸、土蔵26、電柱焼失4、電話不通となりたるが間もなく開通せり(下仁田電話)。
毎日新聞の記事より。
この年には、1月31日 小坂村、5月19日 下仁田町と連続の大火がありました。
- ④. 下仁田大火の罹災50余戸80棟焼く 1月19日午前3時40分頃、北甘楽郡下仁田町の荒物商から出火、水利の便悪いため火勢はたちまち広がり、同町目抜き通りの全焼50余戸80棟、半焼12戸、消防手その他負傷者6名を出して同6時30分漸く鎮火した。町内には鐺川が貫通するのみで、消防用水に恵まれていなかった。去る大正6年に100戸を焼いて以来、18年ぶりの大火であった。(1月20日)上毛新聞。
- ⑤. 朝風呂の火から 今焼 下仁田大火 消防用水に恵まれずこの大事 50余戸80棟焼く。(昭和9年1月20日 毎日新聞)

以上は現下仁田町に於ける主な大火です。資料乏しくようやく上毛新聞社と現毎日新聞(当時は東京日々新聞)の記事から拾いだしました。如何に記録が大切かがわかると思います。新聞記事に見られますように当時は防火用水の設置もなく、用水の不備が大火になったことが分かります。また、旧下仁田町に電灯がついたのは1907年(明治40)、電話が入ったのは1908年(明治41)です。その後、農村部へと広まりました。

※平成28年7月13日の上毛新聞「視点」欄に、熊本地震の教訓―「自分の役割 再確認」という副町
長 吉弘 拓生さんの記事をごらんになりましたか。結びに、「備えあれば憂いなし」という言葉
があるように、今回の地震を教訓に災害への備え、近くの避難所の確認、地域での行動、役割をも
う一度確認しておくことが何よりもの備えになりますので、できることから確認しましょう。」と書い
てありました。地震に限らず種々の防災に備えて日頃の訓練や準備が必要でしょう。9月1日は防災
の日。8月30日から9月5日にかけては防災週間です。この機会を通じて防災についての備えをし
てみましょう。

7月の美化活動

7月は下仁田町の代表的なジオサイト「青岩公園」で美化活動を行いました。

平日の早朝にも関わらず地元の方々を含め20名以上の方に参加いただき、ゴミ拾いや草刈作業を行いました。

作業終了後のミニ講座は、里見応援団長にクリッペの成り立ちや青岩周辺の植物等について分かりやすく解説いただきました。

また、町職員の皆さんによる役場周辺の美化活動も実施されました。



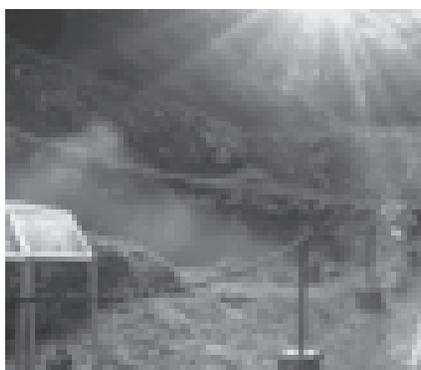
あじさい祭

紫陽花を育てる会が年間を通して手入れをし、管理しているあじさい園で、6月12日(日)から7月2日(土)まであじさい祭りが開催されました。

今年も鮮やかな色の花が馬山丘陵を(河岸段丘)に広がり、県内外より昨年を上回る大勢の皆様にご来園いただきました。園内では観光案内所を設置し、日本ジオパーク下仁田応援団と町職員によるあじさい園を始めジオパークと観光のPRを行い、大勢の皆様にご案内いただき、喜んでいただきました。関係者の皆さんお疲れ様でした。特に、紫陽花を育てる会の皆様には、年間を通してのボランティア活動まことにありがとうございます。今後もよろしくおねがいいたします。

荒船風穴

下仁田町の世界遺産荒船風穴は、7月あたりから冷風の勢いが強くなり、冷風を体感するだけでなく目で楽しむ事ができる時期となります。冷風が見える状態とは、冷風で冷やされた外気に含まれる水分が細かな水の粒子として白くなる現象の事です。さらに木漏れ日が差し込みことでとても神秘的な雰囲気を持ちます。来年はみなさんもその目で確認してみましょう。



毎月20日は『下仁田ジオパークの日』

9月の清掃活動は、ジオサイトの一つである「すべり面」の清掃活動を行います。

日 時 9月20日(火) AM6:30~7:15

集合場所 下仁田町自然史館

*ゴミ袋・ゴミ挟みは用意します。

*軍手等は各自ご持参願います。

*清掃活動終了後10分程度の、ミニジオ講座を開催します。

ジオパークで
地域に活力を!!

ジオパーク推進だより

下仁田町自然史館
下仁田町大字青倉158-1
☎70-3070 FAX67-5315
<http://www.shimonita-geopark.jp/>

関東大会テーマが決定しました

11月20日(日)・21日(月)に開催するジオパーク地区の関東大会のテーマが決定しました!

「地域の宝を発信しよう～子どもの未来を育むジオパーク～」

下仁田町には世界遺産や豊富な自然、ネギやコンニャクなど様々な資源があります。そしてそれらを町づくりに活かしてきた様々な活動があり、それらの活動を、関東大会を通じて全国に発信していくことをコンセプトにこのテーマが選定されました。

ジオパーク下仁田協議会では、同日開催のネギ祭りに参加した人にもジオパークを知ってもらえるよう、関東地区のジオパーク下仁田の人たちの交流が深められるように、様々な企画をすすめています。

当日は皆さんもぜひご参加下さい。

行事予定

ジオパーク講座「再確認!下仁田の防災」

「地震」「津波」「水害」…自然災害にもいろいろな種類があります。下仁田で生活するうえで特に気をつけなければいけない災害はどれでしょうか。下仁田の大地のことを学び、自然災害から自分や身の回りの人を守るための知識を学びましょう。

【日時】平成28年9月3日(土) 午後1時30分～午後2時30分

【会場】下仁田町自然史館ミーティングルーム

受講者にはジオ商品のおみやげ付きます!

行事報告

夏の子どもジオパーク探検教室が開催されました

8月6日(土)・7日(日)二日間にわたり下仁田自然学校の主催する夏の子どもジオパーク探検教室が開催されました。町内外から約20人の子どもたちが集まり、大学生のお兄さんお姉さんの案内のもとに下仁田の自然探検を満喫しました。

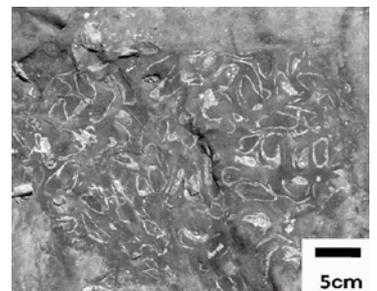
川の探検では、青倉川上流で川の生き物を観察し、夜には自然史館周りの昆虫観察、山の探検では稲倉山に登るなど、下仁田の自然の中で、楽しい夏の思い出作りを行いました。



ネギとコンニャク・ジオパーク

化石を探そう!

みなさんは町なかで化石を見つけることができる場所があるのをご存知ですか? 諏訪神社のワキから河床に下りていくとそれはあります。足元の岩石をよくみると白いぐにゃぐにゃした模様が入っています。この模様の正体が実は化石です。ぐにゃぐにゃした模様は二枚貝の貝殻の断面です。下仁田には実はこんなにすぐ近くに化石スポットがあります! ぜひ1度足を運んでみてください。



※下仁田町自然史館では、午前9時から午後4時まで展示室を開放しています、ぜひお出かけください。

※9月の休館日は1日・15日です

問合せ先 教育課ジオパーク推進係(下仁田町自然史館) ☎70-3070